

会 議 録

会議の名称	第6回小金井市保健福祉総合計画策定委員会
事務局	地域福祉課
開催日時	平成23年11月30日(水) 午後7時から午後8時50分まで
開催場所	萌え木ホールA会議室
出席者	(委員) 山口委員長、竹内副委員長、伊藤委員、高氏委員、中里委員、平野委員、井爪委員、齋藤委員、森田委員、矢野委員、鈴木委員、木所委員 (事務局) 地域福祉課長、障害福祉課長、介護福祉課長、介護福祉課長補佐、健康課長、作業部会職員、コンサルタント会社研究員
欠席者	なし
傍聴の可否	可 ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	0人
傍聴不可等の理由等	
会議次第	1 会議開始にあたって ① 配布資料について ② 第5回策定委員会会議録について 2 資料説明 3 社会福祉協議会の概要について 4 各専門部会からの報告 5 次回の日程について
提出資料	1 第5回策定委員会会議録 ※ 2 小金井市地域福祉計画(素案) ※ ※は事前配布 3 町会・自治会の加入率調査結果 …資料1 4 専門部会の進捗状況について(23.11.30現在) …資料2 5 社協のしおり 6 自律と協働のまちづくりを希求して(社協創立50周年記念誌) 7 小金井ボランティア・市民活動センター活動報告書 (5周年記念号)
その他	

## 会 議 結 果

山口委員長 事務局 事務局 事務局 事務局	<p><b>1. 会議開始にあたって</b></p> <p>— 山口委員長挨拶 —</p> <p>— 地域福祉課長挨拶 —</p> <p>① 配布資料の確認</p> <p>② 第5回策定委員会会議録について                  内容について修正等があれば、お願いしたい。</p> <p>— 特になし —</p> <p>では、承認とさせていただきます。</p>
事務局 コンサルタント	<p><b>2. 資料説明</b></p> <p>※町会・自治会の加入率調査結果（資料1）の説明</p> <p>※小金井市地域福祉計画（素案）の説明</p>
山口委員長 矢野委員	<p>ご意見ご質問があれば、挙手をお願いしたい。</p> <p>全体的に総論的で、基本は市民が中心になって積極的に参加し、それを中間でさまざまな団体が支え、行政は後押しするといったトーンで読み取れる雰囲気だが、これでいいのだろうかと思う。</p> <p>また、民生委員・児童委員の役割が強調されている気がする。アンケート結果でも民生委員は各地域で充足していない状況で、一人一人が抱えているケースは相当な数ということであるならば、もう一歩進んで、行政として民生委員・児童委員を増やす取り組み等、その辺まで踏み込んだものがあるといいのではないかと思います。</p>
高氏委員	<p>アンケートで、地域参加について「関心がない」という市民が非常に多い。脱却するための具体策のところでは、「推進する」あるが、どう推進するのか手だてが見えないし、前回の委員の方の話を聞いていても、このままと同じ状況ではないかという危惧がある。もう少し、踏み込んだ提言をしたほうがいいのではないかと感じている。</p> <p>社会福祉協議会の活動がいつも回覧板に入ってくる。今後、社協が中心になってメンバーを増やすとか、いろいろな活動をしていくといいと思うが、実際、どのような形で動いているのか分からないので、教えていただきたい。</p>
山口委員長 中里委員	<p>社協の概要については、後ほど、副委員長より説明していただく。</p> <p>民生委員・児童委員に関して、友人やいとこたちがかなり民生委員になったが、多人数抱えて、高齢者のお宅を回ったりという仕事は、</p>

井爪委員	<p>負担が大きくかなりきついと聞いている。また、次の世代が育っていないのではないかという話を聞く。どうやって増やしていけばいいのか。このままではどんどん減少する。大きな問題なので、何かよい知恵があればと思う。</p> <p>民生委員の立場から、36ページの「民生委員・児童委員の役割」では、非常に難しい役割を与えられたと思う。これを見ると、民生委員が相談や支援を何でも全部引き受けているような書き方だがそうではなく、私たちはこれらに関連機関と連携しながらやっていくネットワークの1つである。その辺をもう少し盛り込んでいただかないと、民生委員の役割が強調されてとても困る。もともと民生委員は、無給の地方公務員という役割を担っていて、ボランティアでお仕事を持っている方もいる。もちろん、それを目指してはいるが、専門職ではないので、ここまではなかなか全員やりきれていないと思う。皆さんに、もう少し人数を増やすとか、次の世代を育てるなどと言っていただき、本当にありがたいと思うが、予算みたいなものも絡むし、現実、なかなか厳しい問題である。今、フルタイムで仕事をしている方がほとんどの時代になり、家にいないとできない仕事なので、今後その辺は考えて、改革していただきたいと思っている。</p>
伊藤委員	<p>小金井市は5万6,000所帯あるが、皆さんにできるだけ福祉を理解してもらい、認識してもらいたいと思っている。この計画がどのくらい印刷されて、どういうふうに市民の目にふれるようになるのか、どれだけの浸透力があるのか、教えていただきたい。</p>
事務局	<p>最終的に、地域福祉計画、障害、高齢者、健康増進の4計画を1冊にまとめ、それを1,200部印刷し各関係団体に配布する。市民の方には、無償か有償かはこれからの検討になるが、希望される方に行き渡るかたちをとる。また、市のホームページからもダウンロードできるようにする。</p>
山口委員長 平野委員	<p>つくりっぱなしではいけない。大事なことである。</p> <p>大きく2つ、1つ目は字句について、29ページの3番の上「福祉サービス第三者評価システムの普及」とあり、「第三者評価の実施を働きかけます」と書いてあるが、具体的にどんなことなのかが1点。30ページが一番下の「ピアカウンセリング」は、初めて出た言葉と思う。小金井しあわせプランの用語説明にも載っていない。ここの右側を見れば大体イメージは分かるが、用語説明を付けていただきたい。</p>
事務局	<p>今日の素案には用語説明はないが、原案の最終ページには用語説明を掲載する。</p>

<p>平野委員</p>	<p>第三者評価は、NPO等が経営する福祉サービス提供事業者の運営状況を、東京都福祉サービス評価推進機構が認証した第三者機関が客観的に評価し、その評価結果を都のホームページに掲載して情報提供を図っているものである。それにより利用者が、自分に適した事業所を選ぶことが可能になる。市では、事業所が第三者評価を受けた場合、受審の費用の半額ないしは全額について補助している。</p> <p>分かった。2つ目は、25ページの「各種地域福祉活動の推進」で、自治会活動はこれでいいが、ボランティア活動は、学生、企業、一般の方のボランティア活動を、小金井市は大いに推進しようとなっているが、アンケート調査結果でも、ボランティアをやりたいのだけれどきっかけがつかめない、時間がないという意見が多い。それを踏まえて、具体的にどうすればいいかをここで考えていただきたい。</p> <p>この委員会に応募の際の私のテーマは、ボランティア活動、自治会活動で、その中でも書いたが、全国で38の自治体のボランティア制度が非常に充実しており、特に稲毛市は、「企業支援ボランティア」「介護支援ボランティア制度」と、全国に先駆けてボランティア活動を推進している。推進のポイントは、65歳以上の高齢者が介護のボランティアをすると換金可能なポイントがもらえるというものである。介護給付費を年間930万円抑制しているという記事も出ている。</p> <p>ボランティア活動は報酬も交通費もないのが普通だが、アンケート結果でも、時間がない、無報酬といった意見がある。やはりボランティアをしたいがやらない、やれないという方もいると思うので、新しいボランティアさんをどんどん吸収するためにも、多少何か自分にプラスαとなるものがあれば積極的に参加するのではないか。お金でなくても、1年間にボランティア活動を10時間やると、自分の具合が悪くなったときに10時間分を無料でやっていただくなど、いろいろな方法があり、できると思う。</p> <p>そういった仕組みづくりを行政で考えていただいて、制度をつくっていただければ、もっとボランティアも増えるのではないかと思う。</p> <p>「企業のボランティア活動の促進」とあるが、うれしかったのは、今月26日9時から、「小金井桜落葉回収作戦」があったが、大和ハウスや地元企業の方が、社名が書いてあるジャンパーを着て活動していた。それは市報を見てなのか、行政から働き掛けがあったのかは分からないが、ちよくちよく見受けられる。そういった意味でボランティア活動というものが、今後推進の要になるのではないかと思う。</p> <p>活動が進めば、小金井市が住みたいまちベスト10に入るとか、住ん</p>
-------------	--

	<p>で良かったという評価も出てくると思う。また、そうなってほしい。</p> <p>ごみ問題ではいろいろ騒がして汚点が付いたが、ボランティア活動では3年後にはこうなったというPRができるように、積極的にやっていただきたい。</p>
山口委員長	<p>今の件に関係して、担い手のところで「企業のボランティア」「学生のボランティア」と具体的に入れてくださったが、35、36ページの「計画の推進」では企業や学校が出ていない。巻き込むという意味ではどこかに加えていたほうがいいと思ったがいかがか。</p>
平野委員	<p>これだけ学校の多いまちなのだから、賛成である。</p>
山口委員長	<p>学校の立場からすると、社協との連携、ファシリテーターもその1つかもかもしれないが、そういう流れの中での役割もあるかと思っている。小・中・高校、幼保もそうかもしれない。</p>
中里委員	<p>アメリカなどでは、ボランティアは点数に加算され単位の一環になるということもある。ですから、何でも交換条件とか、ポイント制ではないが、少し入りやすいきっかけがあればと感じる。</p>
山口委員長	<p>仕組みづくりの1つの具体例かもしれない。</p>
平野委員	<p>小金井市で授業に入れている学校はあるのか。</p>
竹内副委員長	<p>最近、教育委員会も非常にボランティア教育に力を入れる時代になっている。社協が仲介をして今年度の計画を立て校長会でご協力をお願いすると、校長先生がそれを受けて各学校で生徒たちにお話しされて、社協に申し込んでいただく。一方、受けていただく所としては、地域の児童館とか森田委員の所のような施設等に協力をお願いして割り振っている。終わったら子どもたちに感想文を出してもらい、それをまとめて一冊の本にして子どもたちに返す。そうすると、誰々はどこに行ってもどんな感想を書いているとか、お互いボランティアについての認識、理解が深まるといったことをやっている。</p> <p>ただ、なかなか子どもたちが参加しないという学校側の事情もあるとは思うが、最近、義務的にボランティアに行かせる傾向が出てきて、そうすると子どもたちも義務的になり、果たしてボランティアの趣旨からみて、これでいいのかと疑問に思う。</p> <p>しかし、毎年何百人かの子どもたちが参加して、中には、また来年も行きたいという感想文も多いので、小さいうちからそういう志を経験するのはすごく大事だと思う。受入れ側の森田委員さんには、また別の問題があると思うので、その辺はよろしくお願ひしたい。</p>
森田委員	<p>大変である。去年、おとしは、はんこが欲しいがためとか、学校の課題で嫌々来て、本当は来たくなかったと泣き出す子を諭したり、</p>

鈴木委員	<p>いったい学校はどのような教育で送り出しているのか問い合わせる等々で、去年からは、オリエンテーションに来られない人は受け入れないことにして、それでも来ようと思う人は来てくださいという形にしたところ、本当に好きという理由で来る子どもたちが増えた。今年の夏のボランティアは、すごくよかったねとスタッフみんなと話し合っていた。</p> <p>ただ、ボランティア＝福祉施設というのも、とても安易だと思う。自分たちが住んでいる近所の野川の清掃活動など、もっと幅広くボランティアの選択肢として入れてほしいと思う。</p> <p>同じ立場の事業所として、小・中学生も受け入れており、社協さんを通さないパターンで、先生たちが行ってきなさいとぼんと投げ出す形で組まれたときに、事業所としてはお年寄りに対して危険が伴うということが一番懸念される。何人か一緒だとふざけてしまうが、1人だとおとなしい子もいて、非常に困ってその日に返してしまったケースもある。やはり、育成ということをきちんとやらないでボランティアにつかせるということは非常に危険だと思う。福祉事業所ではない所というのは、非常に賛成である。</p> <p>また以前の事業所で、ポイント制があり、高齢者の方が来たときにも、何か違う目的で来られているのではないかと思われて、誤解をされる方も中にはいらっしやるので、その辺で非常に難しかった。</p> <p>いろいろなボランティアを少しずつ経験する中で、最終的にご自身が選んだ形で、自分に合うボランティアを試せる場が多いといいなとつくづく思う。</p>
高氏委員	<p>「あんず苑」では、学生のバンド等の演奏は皆ボランティアで、あと、幼稚園の子どもたちがお手紙を持って訪ねて来るなどあったと思う。また、ボランティアという形ではないかもしれないが、何人か学生が研修で来て勉強していくこともある。ただ、やはり幼稚園の子どもたちが来ると、すごくお年寄りが喜ぶ。小さいときから、それが当たり前という形をとると苦にならないと思う。</p>
鈴木委員	<p>先ほどの、夏休みだけというボランティアの形は、お子さんたちは非常に難しいと思った。以前の所で始めたときは、最初は2～3カ月に一度だったのが、先生のお力も借りて毎月来るようになり、そしてどの学年も来るようになって、保育園も来ている。それが、ずっと十何年、保育園、小・中学校まで毎月少しずつ来ていただく中で、施設に関わってくれているお子さんができており、すごくいいと思った。</p> <p>また、これから小学校に働き掛けようと思うが、縦割りグループと</p>

山口委員長	<p>かで、1年～6年生まで同じ施設、あるいは自分たちの担当するお年寄りというのを決められてやっている所があり、市でやっているのか、施設同士でやっているのか分からないが、そういった形で長年少しずつ続く中で育っていく環境は、私はとてもありがたいと思った。</p> <p>それが施設だけではなく、地域の一人暮らしの方にもできれば、本当に地域の担い手が自然な形で育つと思う。過疎のほうの地域で、中学生が手紙を持って訪問しているといった取り組みを、以前にどこかで見たことがある。</p>
高氏委員	<p>地方で、子どもたちが野菜のことを勉強して、全員が野菜売りの店主になって担当したということ、テレビでやっていた。</p>
矢野委員	<p>ボランティアにしても利用者にしても、コーディネートするネットワークの中核があって、そこで相談すると個別に割り振るシステムと組織をつくっていかないと、相談に行っても、たらい回しにされて、なかなかすぐ対応してもらえず、きっと困ると思う。</p> <p>やはり受け入れる側もそうだが、供給するというか、こういう人ならこういう施設やこういう所でボランティア活動したら、とかいうことも含めたボランティアの側のコーディネートをする所と、利用したい人のコーディネートをする所が、もう少し一元化できるような形ができるといいのではないかと考えている。また、個人情報の保護という問題との接点で、どこまで情報を交換しながら共有できるかというところが、一歩脱却しないとできないとも思っている。</p> <p>ボランティア活動で言えば、社協さんはボランティアセンターがあってそこでコーディネートされているみたいだが、そういうものが幾つかあって、センター同士が相談し合えるという形になっていかないと、うまく進まないのではないかと思う。</p>
高氏委員	<p>アンケートでも、ボランティアをしたいがどこに行ったらいいかというのは何件もあった。</p>
伊藤委員	<p>いろいろな箇所に、ユニバーサルデザインについて項目が出てきているが、これは前にもこういうものが出て生かされてきているのか。私は、何か今回ぽつと出てきたような感じを受ける。</p>
コンサルタント	<p>バリアフリーは前からあったと思うが、ユニバーサルデザインは、最近特に言われ出したものである。</p>
伊藤委員	<p>今、盛んに叫ばれている問題で、点字ブロック、C o C oバス、車いす等、いずれも一種のユニバーサルデザインの考え方に基づいているものだと思う。</p> <p>実は東京都でユニバーサルデザインのフォーラムがあり、講演会も</p>

事務局	<p>非常に超満員で非常に関心が高く、私も行くまで、あまり頭になかったが、いろいろな話を伺っていると、この考え方は福祉の理念の根本をついていて、福祉を推進するためには、ユニバーサルデザインの推進は非常に必要ではないかということで、もう少し取り挙げてもいいような気がする。</p> <p>そのためには行政もいろいろな施策を考えていただくなくてはいけないと思う。特に小金井市では、例えば、点字ブロックが学芸大の構内にあるくらいであまり見かけない。そういうような施策はどう考えておられるのか伺いたい。</p> <p>先に訂正をお願いしたい。31ページの「バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくりの推進」の真ん中辺りで、「福祉会館などの老朽化している公共施設については、改修等により老朽化」のところを「改修等によりバリアフリー化を進めます」に修正をお願いする。</p> <p>ただ、「福祉会館」については、現在協議しているところなので、最終的に「福祉会館」を入れるかどうかも含め、内部で再度調整したい。</p> <p>ご質問のユニバーサルデザインに対する市の考え方については、「東京都福祉のまちづくり条例」という都条例に基づく各建築物、改修物の審査を地域福祉課で行っている。進んだ市では独自の、都条例よりさらに少しレベルアップした条例を備えていて、条例の基準により審査を行っている市も増えてきている。小金井市は、都条例に基づく審査を行っており、件数は年間で5～6件と少ない。福祉のまちづくり条例では、トイレのスペースや点字ブロックの大きさ等の規定はあるが、なかなか申請件数が増えなく、市としては申請があつて初めて審査をするという受身の形である。</p> <p>ただ、今回、計画に載せる以上は、ただ待っているだけではなく、市報、ホームページ、その他媒体を使ってPRする等の工夫をしていきたいと思う。将来的には、都主催の勉強会等に参加して、レベルアップして市の条例を制定できるところまでもっていくことが理想である。</p>
平野委員	<p>実は今、市の公報を見て、67歳なので駄目だと思ったが、合格通知が来たので、ホームヘルパー2級の講座を10月から受講中である。実際に行くと、30人の定員で男性が2人、あとは女性で、中にはネパールや中国の方もおられる。</p> <p>自分が受講して思ったのが、地域福祉の担い手の育成の中で、どうして男性がもう少しいないのだろうか。これからは老老介護の時代</p>

<p>井爪委員 竹内副委員長</p>	<p>だから、男性もある程度来てもいいのではないかと思います。</p> <p>また、募集の段階で、資格取得後、働く場所が決まっている人、または既に働いている人はその旨を書いてくださいとあり、先生にどうして必要か尋ねると、子育てが終わった45歳以上の方は資格取得後、働こうかなと思うとのこと。子どもが学校に行っている間に、資格を取りに来ている若い方は、資格を取得しても働きにくい、勤めにくいというのがあるので、ボランティアでもしてはどうかとお話されている。せっかく3カ月もかかって資格を取るのだから継続してほしいし、いったん途切れてブランクが続くと、また元通りになってしまうとのこと。</p> <p>そういった意味で、ホームヘルパーの講習を受講させ、合格者を出す際に、資格取得後に勤めていただくことを条件にするなどを検討してみてもどうか。勤めない方は、外部で受講すると14~5万円かかるので、3万プラスα2、3万円もらおうといった条件を出さないと、一生懸命先生が教えてくださるのに、30人のうち何人が福祉の業務に携わるのだろうか。卒業した後のことを考慮して、それなりの処遇をするということを考えてはいかがだろうか。</p> <p>そうすると、応募するときでも、自分は卒業したらボランティアをやろうとか、小金井市のために介護の方で働こうなどというようになる。もう少し受講資格を厳しくして育てるということが必要ではないかと痛感した。</p> <p>私もそう思う。</p> <p>26ページの「町会・自治会」の下から3つ目に、今までなかった内容が積極的に入り、ようやく市の基本構想にも「市民協働」が前面に打ち出されてやるようになった。立川市の町会・自治会のお配りしたのを見ると「協働推進課」というのがある。最近、協働を積極的に進めている市は、大体このような組織がある。小金井市は、相変わらず広報秘書課が片手間でやっている。こうした施策を積極的に進めるならば、組織的にもきちんと位置付けを、検討したほうがいいのではないかと思います。</p> <p>もう1つ、31ページの「移送サービスへの支援」で、最近、高齢の方や体の障害がある方で、病院や買い物に車で出掛けたいという方のための「ハンディサポートこがねい」という有償ボランティアのNPOの組織があって、運転ボランティアが注文を受けると、タクシー料金の確か半額くらいで病院や買い物先へ送り迎えをしているが、希望者が非常に多く、もう受けきれない状況で断らざるを得ないというこ</p>
------------------------	---

<p>矢野委員</p>	<p>とである。その実態は、市に伝えてあるとは言っていたが、やはり体の不自由な方も買い物に行ったり、いろいろ活動はしたいでしょうから、今までも支援していると思うが、実態を踏まえて、考えていく必要があると思う。表現はこれでいいと思うが、東京都でも一番大きなNPOでもそういう状態ということは、それだけ行動する人が多いということだと思う。そういう方々にとっては大変ありがたい組織だが、運営する側が、あっぷあっぷの状態で大変頑張っている状況である。</p> <p>33ページの「安全な自転車利用の促進」で、最近、震災以降自転車が急激に増えて、自転車事故が増えたと、自転車の乗り方が悪いとテレビ等で報道されている。私も毎日自転車で通勤しているが、確かに運転マナーの問題が一部あると思うが、何列にもなって道路をふさぐような歩き方をしている状況もあり、自転車の運転手だけではなく、歩行者も含めた総合的なマナー向上も取り組む必要があるということが1つと、まちづくりの中で自転車、人、車をどう住み分けるのかを一緒に考えていかないと、道路行政が追いついていないということも1つあるわけだから、その辺を総合的に、交通対策課とまちづく推進課がタイアップしたようなまちづくりを考えていただき、その担当のところに入れてもらえるといいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>今日いただいたご意見を、素案作成に反映させていく。</p> <p>パブリックコメントは来年1月4日～2月3日の間。</p> <p>市民説明会は1月14日(土)・1月22日(日)、場所は市役所第2庁舎8階801会議室、時間は午後1時から約2時間程度を予定。</p> <p>パブリックコメントと市民説明会の周知については、市報1月1日号及び市のホームページにて行う予定である。</p>
<p>竹内副委員長</p> <p>山口委員長</p> <p>斉藤委員</p> <p>竹内副委員長</p> <p>斉藤委員</p> <p>竹内副委員長</p> <p>斉藤委員</p> <p>竹内副委員長</p>	<p><b>3. 社会福祉協議会の概要について</b></p> <p>※社協のしおりについて、竹内副委員長より報告</p> <p>ご意見等があれば、挙手をお願いしたい。</p> <p>この組織は法人組織なのか。</p> <p>社会福祉法人である。</p> <p>今回の公益法人改革に引っ掛かるのか。</p> <p>該当していないので、従来のままの社会福祉法人である。</p> <p>聖ヨハネ会とかと同じような範疇になるのか。</p> <p>シルバー人材センターは、法改正の影響を受けて大変厳しい規制を受けたと聞いているが、社協の場合は従来と同じである。</p>

齊藤委員	寄付を受けるときは、寄付金控除を受けられるのか。
竹内副委員長	寄付金控除の対象にはなっている。ただ、つい最近、桜町で300坪の邸宅を寄付していただいたが、福祉施設として使うのであれば、税制上優遇を受けられるが、そのためには階段を緩やかにしたり廊下を広げるなど、税制優遇を受ける以上に大変なお金がかかるといった、非常に厳しい規制がある。これをいただいたことで固定資産税、都市計画税、都税、譲渡所得税と、社会福祉法人であっても税制上の優遇はすぐには受けられないという面のつらさもある。
齊藤委員	町内会も傘下に入るのか。
竹内副委員長	町内会は独立した組織である。町内会にお願いして、町内会から評議員を出していただき、代表の方には運営に参加協力していただいている。上下関係ではなく対等である。
齊藤委員	上下関係にしてしまえば早いのではないか。
矢野委員	会費で運営されており、その会費は町内会のほうから吸い上げる形になっている。
竹内副委員長	会費も寄付金も、町会長にお願いして集めていただいたり、町会の予算で、一括で収めていただく場合もある。逆に、町会でバス旅行をするような場合には、社協で持っている大型バスを安く使ってもらい町会の親睦活動で使っていただく。
齊藤委員	逆に、癒着になるかもしれないが、持ちつ持たれつということか。
竹内副委員長	むしろ、町会がなかったら社協は成り立たない。ただ、町会の組織力が40%半ばに落ちてきているので、全市民になかなかご理解いただけない。この調査を見ても、社協を知らない方が増えてきており、このところをどうするか今内部で議論しているところである。
高氏委員	ボランティアなどのコーディネートをするなど、そういうところとまで考えて、力を入れていくといいのではと素案を読んで思った。
竹内副委員長	ボランティア市民活動センターという組織があって、専任職員が3人常駐、ほかにボランティアが相談業務を交代でいる。大学の先生を委員長とする運営委員会からいろいろご指導いただきながら、ボランティアと職員が一体となって運営している。ボランティアをやりたい方が来れば相談に乗り、ボランティアの先とつないだり、ボランティア養成講座をやって、毎年そこで講座を受けた方が引き続きボランティアに参加するとか、委員長が学校でやっておられるファシリテーター養成講座にも参加して、その卒業生が、地域でボランティア活動をするということをやっている。
高氏委員	ボランティアをしたいと、いつでも訪ねて行ってもいいのか。

竹内副委員長	電話でもいいし、毎日のように多くの方が来られている。
山口委員長	大きなことをするには、スタッフ面とかでまだ大変かもしれない。
竹内副委員長	ほとんどは無償だが、最近は厚生労働省も、有償ボランティアもあるべきだといっており、現在、請求があれば交通費用を払うとか、目の不自由な方のガイドヘルパーは有償とするなどの方法も取っている。
高氏委員	仕事もしている友人が、他市の民生委員をやっているが、以前は運動会など行事に招待されると、寄付金を持って行ってたとのこと。今はそれがなくなり、交通費が出ることもあると話を聞いたが、いろいろとても大変で、それで無償というのはすごいと思う。どうにか少しは増える方向に改善しないと、今は献身的な方がいらっしゃるが、引き続きやる人が集まらないのではと思う。
山口委員長	大事な全体の課題の、期待ばかり多くて負担が多くなる。
井爪委員	難しい仕事と思われているが、地域で何か役に立ちたいと思われる方ならできると思う。何かあると新聞にも出るし、この計画にも重たい役のように高らかにうたい上げられているが、要求されても100%はできないので、みんな自分のできる力の範囲でやっている。昔は、名誉職というイメージが強かったので、小金井でも呼ばれれば御祝金を持って何うしきたりがあったが、10年程前からやめている。
中里委員	それ故、国の表彰の対象になっており、名誉職であり、福祉のエキスパートなのだと思う。
井爪委員	社会が複雑になると、個人情報一つとっても、近所だから手助けしたいと思っても難しいこともある。民生委員は、「法的に認められたおせっかいやき」という立場で考えるのがいいというのが偉い先生のお考えで、私たちもその程度のつもりでやっている。
山口委員長	民生委員は、大事な役割を担って、過度に負担がない、いい形で動いていけるような仕組みづくりが少し具体的に示していければと思う。貴重なご意見、ありがとうございます。
事務局	<p><b>4. 各専門部会からの報告</b></p> <p>※各部会等の進捗状況、事務局担当課長より報告</p>
事務局	<p><b>5. 次回日程について</b></p> <p>今回は、2月13日月曜日 午後7時 市役所第2庁舎8階801会議室</p>
山口委員長	それでは、本日の会議はこれで終了する。